

内閣官房
健康・医療戦略室 調査事業

グローバルヘルスのためのインパクト投資推進
イニシアティブ（トリプル I）の運営に係る
広報・アウトリーチ及び事務局補助
活動報告書

令和 7 年 3 月
(2025 年)

有限責任あづさ監査法人

目次

1 章 トリプル I と本事業の概要	4
1.1 トリプル I の概要	5
1.1.1 トリプル I の背景と目的	5
1.1.2 トリプル I の活動	5
1.1.3 トリプル I の体制	5
1.2 本事業の概要	5
1.2.1 本事業の目的	5
1.2.2 本事業の期間	5
1.2.3 本事業の活動	5
2 章 トリプル I の運営に係る広報・アウトリーチ	7
2.1 広報資料の作成	8
2.2 イベント情報一覧の作成	8
2.3 イベントへの有識者の派遣	8
2.3.1 AVPN Global Conference 2024	8
2.3.2 金融庁インパクトフォーラム	9
2.3.3 World Health Summit	9
2.3.4 Health Tech Network Fireside Chat	10
2.3.5 GIIN Impact Forum	10
2.3.6 SOCAP24	11
2.3.7 Bellagio Center Convening	11
2.4 国際的なネットワーキングイベントの開催	12
2.4.1 第 77 回世界保健総会サイドイベント	12
2.4.2 第 79 回国連総会サイドイベント	13
2.4.3 世界経済フォーラム年次総会 2025 サイドイベント	16
2.4.4 事務局としての業務内容	18
2.5 トリプル I への参加呼びかけ	18
2.6 情報一覧の作成・更新	18
2.7 ウェブサイトの更新・運用作業	19
3 章 トリプル I の運営に係る会議の開催	20
3.1 運営委員会の開催	21
3.1.1 第 3 回運営委員会	21
3.1.2 第 4 回運営委員会	21
3.2 セミナー・情報交換会	21
3.2.1 第 3 回ラウンドテーブル	21
3.2.2 第 4 回ラウンドテーブル	21
3.2.3 第 5 回ラウンドテーブル	22

3.3	G 7 政府関係者との連絡会議	22
3.4	ワーキンググループの開催	22
3.4.1	「インパクト投資の促進のための低中所得国の保健分野の投資環境の調査分析やインパクトの計測評価方法の標準化」に関するワーキンググループ（Pillar 2 IMM WG）（計 6 回）	22
3.4.2	「ブレンドファイナンスの手法によるインパクト投資促進のための開発金融機関や国際機関等との連携による具体的な資金提供メカニズムの調査・検討」に関するワーキンググループ（Working Group on Policies and Enabling Environments）の開催（計 3 回）	24
3.5	「ブレンドファイナンスの手法によるインパクト投資促進のための開発金融機関や国際機関等との連携による具体的な資金提供メカニズムの調査・検討」のワーキンググループ開催のための情報収集・分析及び報告書作成	26
3.5.1	デスクトップ調査	26
3.5.2	アンケート調査	26
3.5.3	インタビュー	26
3.5.4	報告書作成	27
4 章	トリプル I 事務局の補助業務	28
4.1	共同議長との連絡・調整	29
4.2	事務局・運営業務	29
4.3	問い合わせ等への対応	29
4.4	事務局の文書管理	29
4.5	事務局運営に関する打合せ	30
4.6	報告書の作成	30
4.6.1	中間報告書作成	30
4.6.2	年次報告書作成	30

略語表

略語	英語	日本語
AMR	Antimicrobial Resistance	薬剤耐性
DFI	Development Financial Institution	開発金融機関
GIIN	Global Impact Investing Network	グローバル・インパクト投資ネットワーク
GSG	Global Steering Group for Impact Investment	—
IMM	Impact Measurement and Management	インパクト測定・マネジメント
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
LMICs	Low- and Middle-income Countries	低中所得国
MDB	Multilateral Development Bank	国際開発金融機関
PPR	Prevention, Preparedness, and Response	予防・備え・対応
SDGs	Sustainable Development Goals	持続可能な開発目標
UHC	Universal Health Coverage	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ
WG	Working Group	ワーキンググループ

1章 トリプルIと本事業の概要

【要約】

本章では、トリプルI及び本事業の背景や目的、活動内容について記載している。

近年、低中所得国（LMICs）を中心とする各国にて、グローバルヘルス分野の資金需要が高まっている。パンデミックなどの公衆衛生危機に対する予防・備え・対応（PPR）を強化し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を実現するためにも、公的資金のみならず、新たな民間資金の動員が求められている。このような背景を受け、グローバルヘルス分野でのインパクト投資を促進することを目的に「グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ（トリプルI、Triple I for GH）」が2023年5月のG7広島サミットでG7首脳により承認され、同年9月の国連総会ハイレベル会合で正式に立ち上げられた。トリプルIはマルチステークホルダーが参画する国際的な活動であるが、G7における協議において、活動開始から2年間は、日本政府が事務局として運営していくことが合意されており、内閣官房健康・医療戦略室が事務局業務を行っている。トリプルIは以下3つの柱に沿った活動を行っている。

- 1 グローバルヘルス分野でのインパクト投資の認知向上や参加機関の拡大に向けた広報
- 2 インパクト投資促進のためのLMICsにおける保健分野の投資環境の調査分析やインパクトの計測評価方法の標準化
- 3 ブレンディッドファインナンスを含むインパクト投資促進のための政府、開発金融機関（DFI）、国際開発金融機関（MDB）、国際機関等との連携による具体的な資金提供メカニズムの調査・検討

上記活動を支えるため本事業では、トリプルIの運営に係る広報・アウトリー、トリプルIの運営に係る会議の開催、トリプルI事務局の補助業務を実施した。主な成果として、本事業開始時に約65団体であったトリプルIのパートナー数が、本事業終了時には109団体にまで増加したほか、各区政府や国際機関、開発金融機関、国際開発金融機関等に対する提言を取りまとめ報告書として発表した。また、ウェブサイトの更新として、トリプルIのパートナーが各地域で取り組んだ成果を示すページを追加したり、パートナーのみが閲覧し投資情報を登録できる機能の実装を行った。

1.1 トリプルIの概要

1.1.1 トリプルIの背景と目的

パンデミックを含む公衆衛生危機に対する予防・備え・対応 (PPR: Prevention, Preparedness, and Response) の強化と、より強靭・公平・持続可能なユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC: Universal Health Coverage) の達成に向け、低中所得国 (LMICs: Low- and Middle-income Countries) を中心とする各国における資金需要が高まっている。近年では、これらグローバルヘルス分野への資金需要に対応すべく、公的資金のみならず、新たな民間資金の動員が求められている。

このような背景から、グローバルヘルス分野でのインパクト投資を促進するためのイニシアティブとして、「グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ（トリプル I: Impact Investment Initiative for Global Health (Triple I for GH)）」が 2023 年 5 月の G7 広島サミットにて G7 首脳により承認された。その後、同年 9 月に開催された国連総会ハイレベル会合において、同イニシアティブが正式に立ち上げられた。

1.1.2 トリプルIの活動

トリプル I はグローバルヘルスへの貢献を目的に、主に 3 つの柱に沿った活動を行っている。

- 1 グローバルヘルス分野でのインパクト投資の認知向上や参加機関の拡大に向けた広報
- 2 インパクト投資促進のための LMICs における保健分野の投資環境の調査分析やインパクトの計測評価方法の標準化
- 3 ブレンディッドファイナンスを含むインパクト投資促進のための政府、開発金融機関(DFI)、国際開発金融機関 (MDB)、国際機関等との連携による具体的な資金提供メカニズムの調査・検討

1.1.3 トリプルIの体制

トリプル I の共同議長として、Shibusawa & Company, Inc. の CEO を務める渋澤健氏、Bill & Melinda Gates Foundation の Senior Advisor を務める Steve Davis 氏、FIND の Board Chair を務める Ayoade Alakija 氏の三名が選出されている。また、イニシアティブの意思決定を支える組織体として運営委員会が設置されている。さらには、日々のトリプル I の業務を支援する目的でトリプル I 事務局が設置されており、同イニシアティブの立ち上げから二年間は日本国政府が事務局を務めることが予定されている。

1.2 本事業の概要

1.2.1 本事業の目的

本事業は、トリプル I の 3 つの柱に沿った活動を行うべく、外部機関が有するインパクト投資に係る専門的な知見、英語による効果的なコミュニケーション・広報の能力等を活用しつつ、トリプル I の運営に係る広報・アウトリーチ及び事務局補助業務を行うことを目的としている。

1.2.2 本事業の期間

本事業は、令和 6 年 4 月 17 日から令和 7 年 3 月 31 日までの期間にかけて実施された。

1.2.3 本事業の活動

本事業では前述の目的に合わせ、以下 3 つの業務に従事した。概要のみ以下に記載するが、詳細は 2 章

以降にて記載する。

1. トリプル I の運営に係る広報・アウトリーチ
2. トリプル I の運営に係る会議の開催
3. トリプル I 事務局の補助業務

1.2.3.1 トリプル I の運営に係る広報・アウトリーチ

グローバルヘルス分野のインパクト投資に関係する国内外の民間投資機関、DFI、MDB、医療・ヘルスケア関係の事業を行う事業者、国際保健に関する業務を行う機関・事業者等に対して、トリプル I の広報・アウトリーチ活動を行った。具体的には、トリプル I の目的や活動を分かりやすく示した広報資料の作成及び配布、他機関が主催するインパクト投資に関する国際的なイベント情報をまとめた一覧の作成、主要な国際イベントへの共同議長を始めとする有識者の派遣、国際的なネットワーキングイベントの開催、トリプル I への参加呼びかけ、ウェブサイトの更新及び運用等を行った。これらの成果として、本事業開始時に約 65 団体であったトリプル I のパートナー数が、約 1 年後の本事業終了時には 109 団体にまで増加した。

1.2.3.2 トリプル I の運営に係る会議の開催

トリプル I の運営に係る会議として、運営委員会やセミナー・情報交換会、G7 政府関係者との連絡会議、2 つのワーキンググループ (WG) の開催を行った。また、インパクト投資促進のための資金提供メカニズムに関する調査・分析を行い、各国政府や国際機関、DFI、MDB 等に対する提言として報告書に取りまとめた。

1.2.3.3 トリプル I 事務局の補助業務

トリプル I の日々の活動の運営補助として、共同議長との連絡・調整、参加機関の登録受付や一覧リスト管理といった事務局・運営業務、各種問い合わせ対応、事務局の文書管理、事務局運営に関する打合せ等を行った。

2章 トリプル I の運営に係る広報・アウトリーチ

【要約】

本章では、グローバルヘルス分野のインパクト投資に関する国内外の民間投資機関、開発金融機関、国際開発金融機関、医療・ヘルスケア関係の事業を行う事業者、国際保健に関する業務を行う機関・事業者等に対して行った、トリプル I の広報・アウトリーチ活動について記載している。

具体的な活動としては、トリプル I の趣旨や活動を図表や写真と共に分かりやすくまとめた広報資料の作成及び配布、他機関が主催するインパクト投資に関する国際的なイベント情報一覧の作成を行った。また、金融庁インパクトフォーラムや World Health Summit 等、主要な国際イベントに共同議長ら有識者を派遣したほか、第 77 回世界保健総会、第 79 回国連総会や世界経済フォーラム年次総会 2025 のサイドイベントとして国際的なネットワーキングイベントの開催を支援した。さらには、計 33 機関にトリプル I への参加呼びかけを行い新規パートナー数の増加に貢献したほか、トリプル I の成果を示すページやパートナー専用の投資情報登録機能の追加を含むトリプル I のウェブサイト更新及び運用を行った。

2.1 広報資料の作成

トリプル I の活動を推進するためには、多くのステークホルダーに対してトリプル I の趣旨や目的、活動内容を広く知ってもらうことが不可欠であり、それらを意識した上で広報資料を作成した。

広報資料の作成にあたっては、まずトリプル I の目的と活動内容を明確に伝えるために、簡潔かつ訴求力のある文書を作成することが求められる。そのため、トリプル I のウェブサイトや過去の活動実績を理解し、内閣官房とも相談しながら広報資料を作成した。まずトリプル I の背景や目的を明確に説明し、紹介相手にトリプル I の全体像を理解してもらえるよう工夫を行った。また、活動内容や成功事例を示すことで、読み手に対してトリプル I 参加による具体的なメリットが伝わるよう意識した。加えて、具体的なパートナー入会方法を伝えることで、トリプル I への入会の後押し及びトリプル I 全体の拡大を目指した。

広報資料の内容は、トリプル I の活動の進捗や最新情報に基づいて随時更新されることが重要である。新たなイベント開催や調査成果があった場合はその情報を反映させ、常に最新の状態になるようアップデートを行った。さらに、読み手がトリプル I の活動内容をより理解できるよう、図表や写真を積極的に活用し視覚的な訴求力を高めるといった工夫を行った。このように作成した広報資料はトリプル I の活動を支える重要なツールとなり、より多くのステークホルダーにトリプル I の魅力を伝え、参加を促すことができた。

2.2 イベント情報一覧の作成

2025年9月までに他機関が主催するグローバルヘルスやインパクト投資に関する国際的なイベント情報を収集し、イベント情報一覧として整理した。今後のトリプル I の広報・アウトリーチの場として活用できる可能性のあるイベントを約15件選定し、イベント名、スケジュール、場所、主催者、内容（過去の登壇機関名、参加人数、セッションテーマ、次回の開催予定規模等）、関連 URL を一覧にしてとりまとめた。イベントは、開催地域や時期、分野（ヘルス重視・投資重視）等に極端な偏りがないよう配慮して選定した。

2.3 イベントへの有識者の派遣

2.3.1 AVPN Global Conference 2024

2024年4月24日、トリプル I 共同議長である渋澤健氏が、アブダビ(UAE)で開催されたAVPN(Asian Venture Philanthropy Network)グローバルカンファレンス2024にパネリストとして参加した。本カンファレンスは、アジアやその他約46か国・地域から1500人以上の代表者や講演者を招いて開催されたもので、投資家、慈善活動家、企業、政策立案者、研究者、起業家、実施機関が一堂に会する重要なイベントであった。

渋澤健氏は、「インパクト投資エコシステムの構築」と新興トレンドのナビゲート」と題したパネルディスカッションに参加し、トリプル I の目的である民間資本の動員、インパクト投資の拡大、そしてグローバルヘルスの成果向上を説明するとともに、トリプル



(AVPN Global Conference 2024 事務局提供)

I の三本柱について言及した。渋澤氏は、グローバルヘルスのためのインパクト投資が成長機会を秘めていること、およびグローバルヘルスが持続可能な社会を構築するための戦略であるとの考え方を強調した。パネル内では、参加者たちがインパクト投資の実践例、変革の推進要因、協力を促進するための方法について共有した。

2.3.2 金融庁インパクトフォーラム

2024年5月14日に金融庁インパクトフォーラムが開催され、「グローバルヘルスとトリプル I」に関するパネルセッションが行われた。

このパネルセッションには、鈴木秀生国際保健担当大使のほか、トリプル I の共同議長である Ayoade Alakija 氏が登壇した。加えて、トリプル I のパートナーとして、エーザイ株式会社、日本生命保険相互会社、米国際開発金融公社（DFC）も参加した。このパネルセッションでは、インパクト投資が持つ意義を説明し民間セクターの資金動員を促進するというトリプル I の目標について紹介が行われた。また、トリプル I の取り組みはビジネス成長の機会に繋がっていること、

また財務リターンを生むことにより世界中の多くの金融機関や企業の参加が促進されることについて、参加者間にて共通認識が持たれた。その中で、鈴木大使と Alakija 氏はそれぞれの専門家と見解を共有し、活発な意見交換が行われた。

さらに、トリプル I の共同議長である渋澤健氏は「インパクトの将来像」と題するパネルセッションにも登壇し、新しい資本主義におけるインパクト投資の重要性について強調した。

その他、トリプル I 事務局として、フォーラム開催時の広報ブースにてアウトリーチ資料を配布し、参加者にトリプル I の宣伝も行った。



(インパクトフォーラム事務局提供)

2.3.3 World Health Summit

2024年10月13日から15日まで開催されたWorld Health Summitにおいて、トリプル I の共同議長である Steve Davis 氏が「The Evolving Role of Global Health Diplomacy for the G7/G20 – Prioritizing Health in a Multi-crisis World」というセッションに登壇した。このセッションでは、複数の危機に直面する世界で、グローバルヘルス外交が果たす役割について議論が行われた。

パネルディスカッションでは、グローバルヘルス外交の現状、マルチセクターコラボレーションの必要性、全社会と人々を中心に据えたアプローチ、官民連携の役割、グローバルヘルス分野への投資促進のための新たなアクターとの協力、持続的なイニシアティブの構築について議論が行われた。また、今後の展望として、国際機関への信頼を強化し、多国間機関での効果的かつ公平な意思決定を可能にする外交的メカニズムの採用、持続可能な資金調達の確保についても議論が行われた。

Davis 氏は、G7 広島サミットを開催した日本の経験を基に、健康で強靭な人口が経済生産性にどのように関連しているかについて言及した。特に、2020 年の新型コロナウイルスパンデミックの経済的影響について言及し、このようなグローバルヘルスショックに対する投資の重要性を強調した。また、トリプ

ル I の役割と過去 20 年間の G20 の教訓に基づき、グローバルヘルスが社会経済的繁栄にどのように結びついているかを説明した。

このセッションは、2024 年という変革の年において、地政学的緊張、気候変動、移民、都市化、貿易、技術とサプライチェーンの混乱により、グローバルヘルス外交が大きく影響を受けることを認識し、多くの視点からグローバルヘルスの優先事項を再評価する重要な機会となった。

2.3.4 Health Tech Network Fireside Chat

2024 年 Health Tech Network Fireside Chat において、トリプル I の共同議長である Steve Davis 氏と国際協力機構 (JICA) の武藤めぐみ上級審議役（当時）が登壇し、グローバルヘルスとインパクト投資に焦点を当てたセッションを行った。

セッションの冒頭、司会による開始挨拶の後、Davis 氏がトリプル I の概要を紹介した。続いて、武藤氏が JICA の取り組みについて説明した。JICA はトリプル I のパートナーとして、UHC 達成に向けた様々な組織とのディスカッションや、将来的な共創への期待について述べた。また、JICA の投資と資金調達の例として、Afreximbank や Dr. Consulta との協力事例を紹介し、これら組織との連携が UHC 達成に不可欠である点を強調した。

その後、Davis 氏と武藤氏との間で、JICA の取り組みと今後の計画についてのディスカッションが行われた。ここでは、トリプル I の活動を通じて学んだことの共有や、異なるセクター間の協力を強化するために政府が何をすべきかについて具体事例の紹介がなされた。特に、インパクト投資を促進するための政府の役割や、行政と民間セクターの連携の重要性が強調された。

最後に、聴衆からの質問に答えながら、セッションのまとめとしてトリプル I の今後の計画と活動について説明を行った。同セッションは、トリプル I の活動を広く紹介し、JICA との強力なパートナーシップによる成功事例を共有することで、ヘルステック関係者へのインパクト投資に対する理解と関心を高める有意義な機会となった。

2.3.5 GIIN Impact Forum

2024 年 10 月 23 日に開催された GIIN Impact Forum において、トリプル I のパネルセッション「ヘルスケアにおける新たな機会」を行った。このセッションでは、トリプル I の共同議長である渋澤健氏がモレーターを務め、パートナー企業の代表者として、LeapFrog Investments のヘルスケア部門 Global Co-Leader である Biju Mohandas 氏、TVM Capital Healthcare の会長兼 CEO である Helmut Schuehsler 氏、そして Medical Credit Fund の投資ディレクターである Dorien Mulder 氏が参加した。各パネリストは、イノベーション、AI、そしてグローバルヘルスにおけるインパクト投資についての見解を共有し、議論を深めた。

渋澤氏は、トリプル I が LMICs におけるインパクト投資を促進するため、健康課題に関する可視性の向上、インパクトの測定・マネジメント (IMM: Impact Measurement & Management) 調和、政策環境



(GIIN Impact Forum 事務局提供)

の分析等に継続的に取り組む必要性を強調した。また、この重要な分野で顕著なインパクトを達成するためには、ステークホルダー間の協力をより強化する必要があると言及した。

パネリストたちは、今日において最も有望なヘルスケア分野のイノベーションについての見解を共有し、それらが特に LMICs において社会的インパクトと財務的リターンの両方を生み出す可能性があることについて議論した。また、インパクト投資家がグローバルヘルスにおいて社会的及び財務的リターンの両方を推進する上で果たすべき重要な役割について議論を行った。

2.3.6 [SOCAP24](#)

2024年10月28日、トリプルIはサンフランシスコで開催されたSOCAP24において、「Mobilizing Capital for Global Health: A G7 Impact Investment Initiative」というセッションを主催した。SOCAPは、社会的及び環境的インパクトを推進する投資家や革新者の国際的なコミュニティを育成することを目的としており、影響力のある業界リーダーや専門家が参加し新しいソリューションや戦略を探求する会議としても知られている。

このセッションは、Sorenson Impact の上級フェローである Eric Rice 氏がモデレーターを務め、トリプルIの共同議長である Steve Davis 氏、Verge HealthTech Fund のマネージング・パートナーである Scarlett Chen 氏、そして Grand Challenges Canada のソーシャル・ファイナンス・ディレクターである Leeat Gellis 氏が参加した。



(SOCAP24 事務局提供)

セッションの中で Davis 氏は、トリプルIが進める取り組みについて強調し、グローバルヘルスの課題を解決し 2030 年までに UHC と持続可能な開発目標 3 (SDG3) を達成するためには、公的資金と並行して民間資金を動員することが不可欠であると述べた。各パネリストは、資金調達における革新的なアプローチの必要性や、G7 がグローバルヘルスへの投資を促進する上で果たすべき重要な役割について議論を深めた。本セッションは、トリプルIの活動について広く紹介し、公的及び民間資金を通じて持続可能なヘルスケア財政を構築することの重要性について強調する貴重な機会となった。

2.3.7 Bellagio Center Convening

2024年12月9日から13日に開催された「Bellagio Center Convening」において、トリプルIの共同議長渋澤健氏が 10 日のイベントにてオンラインで登壇した。本会合は「Igniting Scale |Private Sector Finance for Global Health Solutions in Emerging and Frontier Markets」というテーマのもと、新興市場におけるヘルスケア課題解決のための民間資金調達方法について議論することを目的としている。

10日のオンライン講演で渋澤氏は、トリプルIの具体的な取り組み事例のほか、今後の課題や将来の展望について説明を行った。新興市場でのヘルスケアの公平性を達成し、持続可能な開発目標を実現するためにトリプルIが重要な役割を果たしている旨を説明した。

本会合には、国際機関や DFI のほか、民間の投資企業も多く参加した。渋澤氏の登壇は、民間セクター資金を通じたグローバルヘルス課題を解決する重要な取り組み例を示すものとなり、参加者にとって有益な内容となった。

2.4 國際的なネットワーキングイベントの開催

2.4.1 第77回世界保健総会サイドイベント

2.4.1.1 イベント概要

2024年5月28日、ジュネーブで開催された第77回世界保健総会において、トリプルIはハイブリッド形式のサイドイベント「Impact Investing for Global Health: Cross Sectoral Learnings; “What does it take to be an ‘impact investor’/ ‘impact investee’ for global health?”」を主催した。このイベントには、世界中の主要なステークホルダー150名以上が参加し、特に健康と金融セクター間の相互知識と理解のギャップを埋める架け橋となった。

イベントの冒頭では、日本の厚生労働省医務技監、総合医療・グローバルヘルス担当の迫井正深氏が開会の挨拶を行い、民間、公的、金融投資家などすべてのアクターがヘルスシステム強化に参加する重要性と、日本政府のトリプルIへの継続的な貢献を強調した。次にWHO事務局長補（医薬品・健康製品アクセス担当）の中谷祐貴子氏が、政府間の努力をより良く調整して世界的に医療を改善する必要性について述べた。続いて、エジプトの保健人口省の国際関係担当副大臣であるHatem Amer氏が、持続可能で変革的な医療を推進するために投資の力を活用する重要性を強調した。その後、トリプルIの共同議長であるSteve Davis氏が、トリプルIの三つの柱について紹介した。

イベントのハイライトは、トリプルIの共同議長であるAyoade Alakija氏によってモデレートされたラウンドテーブル対話であった。異なる分野のステークホルダー代表者8名が参加し、グローバルヘルスにおけるインパクト投資家／投資先になるために必要な条件について意見を交わした。主な議論のポイントとして、グローバルヘルスのバリューチェーンを改善するためのイノベーションの役割、数値によるインパクト測定の必要性、セクター間の協力を促進してグローバルヘルス資金ギャップを埋める重要性が挙げられていた。

セッションの閉会挨拶には、トリプルIの共同議長である渋澤健氏が登壇し、トリプルIの目的とアプローチを再度強調、パートナーへの参加を呼び掛けた。また、セッション後のネットワーキングを通じてステークホルダー間のコミュニティ形成を促進し、投資の社会的インパクトを創出することにも貢献した。今回のイベントは、グローバルな環境が進化する中で、広範な資金調達とヘルスエコシステムに対する理解を深めるためにステークホルダーを集める重要な機会になった。



2.4.1.2 登壇者一覧

<Opening Remarks>

- Dr. Masami Sakai, Vice Minister for Health, Chief Medical & Global Health Officer, Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

- Dr. Yukiko Nakatani, Assistant Director-General for Access to Medicines and Health Products of WHO
- Dr. Hatem Amer, Associate Minister of Health and Population for International Relations of Egypt

<Triple I Introduction>

- Mr. Steve Davis, Triple I Co-Chair

<High Level Panelists>

- Mr. Labeeb Abboud, Chairman and CEO of the Global Health Investment Corporation (GHIC)
- Dr. Zina Affas Besse, Partner - Deputy Head of Healthcare Private Equity, Impact Management of AXA Investment Managers
- Dr. Ayoade Alakija, Triple I Co-Chair
- Mr. John Fairhurst, Head, Private Sector Engagement of the Global Fund
- Mr. Farid Fezoua, Director for Global Health, Education and Services of the International Finance Corporation (IFC)
- Dr. Megumi Muto, Vice President of the Japan International Cooperation Agency (JICA)
- Dr. John-Arne Røttingen, CEO of the Wellcome Trust
- Ms. Joelle Tanguy, External Affairs Director of the Drugs for Neglected Diseases initiative (DNDi)
- Mr. Antony Taubman, Director of the Intellectual Property, Government Procurement and Competition Division of the World Trade Organization (WTO)

<Closing Remarks>

- Mr. Ken Shibusawa, Triple I Co-Chair

2.4.1.3 アンケート結果

参加者のうち計 22 名からアンケート回答を得た。総合満足度としては、「大変満足」、「満足」と回答した人が 80% を超えた。コメントとして、「多様なセクターから異なる視点での意見を聞けたのが印象的だった」、「トリプル I の現在の活動や将来展望が聞けて良かった」等の声が聞かれた。今後とり上げて欲しいテーマを聞いたところ、「インパクト投資における事業者と投資家間の議論」、「インパクト投資家とのネットワーク構築方法」といった声が聞かれた。

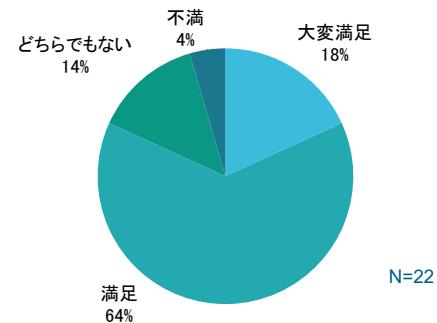


図3 第77回世界保健総会サイドイベント アンケート結果(総合満足度)

2.4.2 第 79 回国連総会サイドイベント

2.4.2.1 イベント概要

2024 年 9 月 24 日、第 79 回国連総会のフリンジにおいて、「Impact Investing for Global Health: Triple I Progress & Forward Look」と題するトリプル I のサイドイベントを開催した。サイドイベントはトリプ

ルⅠ立ち上げから1周年を記念する機会に行われ、幅広い分野から150名以上の参加者を得ることができた。

ハイレベル・セッションでは冒頭挨拶において、武見敬三厚生労働大臣（当時）及びGSG ImpactのNick Hurd議長（英国元大臣）が登壇し、グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の重要性やトリプルⅠへの期待を述べた。ハイレベル・パネル・ディスカッションでは、国際機関やDFI、民間セクターから6名のパネリストを迎える、パートナーシップやイノベーションの重要性、母子保健、栄養、糖尿病、薬剤耐性（AMR）など様々な分野でインパクト投資が必要とされていることなどが話し合われた。

インタラクティブ・セミナーでは、トリプルⅠの3つの柱に沿って、インパクト投資家や保健関連国際機関、DFIなどの専門家等により活発な議論が行われた。第1セッションは「Standardization of IMM」

（議長：渋澤氏）のタイトルの下、各機関のインパクト評価へのアプローチや経験について議論が行われた。第2セッションは「Establishing a set of policy standards and enabling environment」（議長：Davis氏）のタイトルの下、公的セクターによる政策やイニシアチブを通じてどのようにインパクト投資に適した環境を整えることができるかについて議論が行われた。第3セッションは「Enhancing Network and Partnership, with increased sectoral understanding」（議長：Alakija氏）のタイトルの下、官民の円滑な連携を始め、異なるセクター間の理解促進の重要性が議論された。



2.4.2.2 登壇者一覧

<High Level Session>

[Opening Remarks]

- The Rt. Hon. Nick Hurd, GSG Impact and Impact Task Force Chair
- H.E. Mr. Keizo Takemi, Minister of Health, Labour and Welfare of Japan

[Panelists]

- Sir Ronald Cohen, President, GSG Impact
- Ms. Oluranti Doherty, Managing Director for Export Development, African Export-Import Bank
- Ms. Diene Keita, Deputy Executive Director, UNFPA
- Ms. Takuko Sawada, Director and Vice Chairperson of the Board of the Shionogi & Co., Ltd.
- Dr. Karlee Silver, Chief Executive Officer for Grand Challenges Canada
- Ms. Hannan Sulieman, Deputy Executive Director, Management, UNICEF

<Interactive Seminar Session 1>

- Mr. Francesco Saverio Ambrogetti, Principal Adviser Innovative and Alternative Finance for Children

(IF4C), UNICEF

- Mr. Amit Bouri, Chief Executive Officer and Co-Founder of the GIIN
- Ms. Leeat Gellis, Director, Social Finance, Grand Challenges Canada
- Dr. Curt H LaBelle, Head of Global Health Private Equity, AXA Investment Managers
- Ms. Zeynep Kantur Ozenci, Global Head of Health, International Finance Corporation (IFC)
- Mr. Kotaro Sueyoshi, Deputy Director, Sustainable Business Promotion Department, Mizuho Financial Group, Inc.

<Interactive Seminar Session 2>

- Mr. Labeeb Abboud, Chairman and CEO of Global Health Investment Corporation (GHIC)
- Mr. Francesco Saverio Ambrogetti, Principal Adviser Innovative and Alternative Finance for Children (IF4C), UNICEF
- Mr. Michael Anderson, Chief Executive Officer and Board member, MedAccess
- Mr. Tenu Avafia, Deputy Executive Director, Unitaid
- Mr. Martin Edlund, Executive Director, Health Finance Coalition (HFC)
- Mr. Kotaro Sueyoshi, Deputy Director, Sustainable Business Promotion Department, Mizuho Financial Group, Inc.

<Interactive Seminar Session 3>

- Mr. Ayotunde Aladejana, Head of Global Partnerships, 54 Collective VC
- Dr. Catharina Boehme, Assistant Director General External Relations at WHO
- Ms. Oluranti Doherty, Managing Director for Export Development of the African Export-Import Bank (Afreximbank)
- Mr. John Fairhurst, Head of Private Sector Engagement at the Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria
- Mr. Farid Fezoua, Global Director Health and Education, International Finance Corporation (IFC)
- Ms. Nafisa Jiwani, Managing Director, U.S. International Development Finance Corporation (DFC)
- Mr. Yosuke Kaneko, Founder / CEO at SORA Technology
- Dr. Curt H LaBelle, Head of healthcare Private Equity, Impact Management, AXA Investment Managers
- Mr. Marcos Neto, UN Assistant Secretary-General and Director of UNDP's Bureau for Policy and Programme Support
- Dr. Magda Robalo, Co-chair of UHC2030

2.4.2.3 アンケート結果

参加者へのアンケート（回答者 31 名）にて総合満足度を聞いたところ、五段階評価のうち 80%以上が「大変満足」、「満足」と回答した。「インパクト投資に関して多様な視点からの話を聞いて良かった」、「良いネットワーキングの場となった」等、概ねポジティブなコメントが多くかった。今後取り扱って欲しいテーマとしては、「アウトカムファンド（アウトカムに連動し資金提供を行うモデル）」、「インパクトや投資集計の事例」、「持続的なイノベーション促進方法」等が挙げられた。

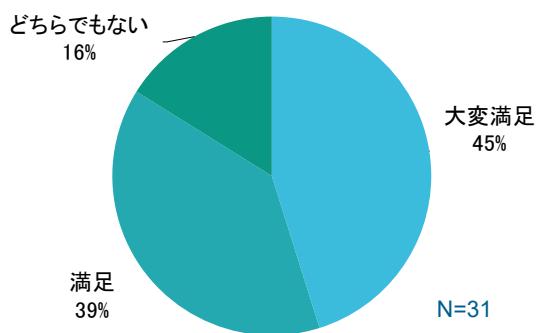


図1 第79回国連総会サイドイベント アンケート結果(総合満足度)

2.4.3 世界経済フォーラム年次総会 2025 サイドイベント

2.4.3.1 イベント概要

2025年1月21日、スイスのダボスで開催された世界経済フォーラム年次総会 2025において、ハイブリッド形式のサイドイベントを開催した。本イベントには 100 名以上の参加者が集まり、特に LMICs におけるグローバルヘルス分野のインパクト投資を進展させるための行動について議論した。

本イベントは、開会の挨拶、トリプル I の進捗及び政策に関するレコメンデーション紹介、そしてグローバルヘルス分野へのインパクト投資の未来に関する活発なパネルディスカッションなど、一連の有意義なセッションが行われた。また、「Unlocking Investment for Global Health Impact - What Governments & Global Institutions Can Do to Accelerate Impact Investment for Global Health」と題した政策立案者向けのレコメンデーションが発表され、刺激的な議論が展開された。イベントの開会メッセージは友納理緒内閣府大臣政務官のビデオメッセージで始まり、WHO の Tedros Adhanom Ghebreyesus 事務局長を代表して Catharina Boeheme 氏が開会の挨拶を述べた。両氏のスピーチにより、グローバルヘルスのためのインパクト投資を進める上での協力の重要性が強調された。

開会の挨拶に続き、トリプル I 共同議長の渋澤健氏によるトリプル I の進捗に関するプレゼンテーションが行われた。プレゼンテーションでは、パートナー数が 37 から 102 に増加したこと、アウトリー・IMM 政策のインセンティブ化について強調し、新たな形態の投資資本をグローバルヘルス分野に動員する必要性が述べられた。また、同共同議長の Steve Davis 氏が政策立案者向けのレコメンデーションを紹介し、参加者間の活発な議論を促した。同共同議長の Ayoade Alakija 氏がモデレートするパネルディスカッション「The Way Forward」では、様々な分野の専門家が登壇し、政策の役割や将来の行動についての見解を共有した。



2.4.3.2 登壇者一覧

<Opening Remarks>

- Ms. Rio Tomonoh, Parliamentary Vice-Minister, Cabinet Office of Japan
- Dr. Catharina Boehme, Assistant Director-General, World Health Organization (WHO) (*on behalf of Director-General, WHO, Dr. Tedros Adhanom Ghebreyesus)

<Presentations>

- Mr. Ken Shibusawa, Co-chair of Triple I for Global Health / CEO, Shibusawa & Company, Inc.
- Mr. Steve Davis, Co-chair of Triple I for Global Health / Senior Advisor and Interim Director of the Philanthropic Partnerships Team, Bill & Melinda Gates Foundation
-

<Panel Discussion>

(moderator)

- Dr. Ayoade Alakija, Co-chair of Triple I for Global Health / The Board Chair of FIND
- (panelists (in alphabetical order))
- Dr. Zina Affas Besse, Partner - Deputy Head of Healthcare Private Equity, AXA IM
 - Mr. Denys Denya, Senior Executive Vice President, African Export-Import Bank (Afreximbank)
 - Mr. Charles Gore, Executive Director, Medicines Patent Pool
 - A representative from KfW, the German Development Bank

<Closing Remarks>

- H.E. Mr. Hideo Suzuki, Ambassador for Global Health, Government of Japan

2.4.3.3 アンケート結果

参加者の中からアンケート結果を受領した。五段階で総合満足度を聞いたところ、47%が「大変満足」、35%が「満足」と回答している。感想としては、「内容、登壇者共に素晴らしかった」、「投資事例・製品紹介が分かりやすかった」とのコメントを頂いた。今後取り扱って欲しいテーマとして、「インパクト投資の政策に関するトレンド」や「アフリカにおけるUHC達成に向けた民間セクターの役割」、「イノベーションにおける慈善家の役割」といった声が聞かれた。

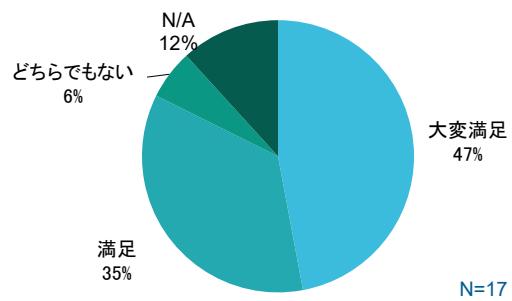


図2 世界経済フォーラム年次総会2025サイドイベント
アンケート結果(総合満足度)

2.4.4 事務局としての業務内容

国際的なネットワーキングイベントの開催に当たり、事務局としては主に以下の業務を実施した。

項目	主な業務内容
1. 企画立案	コンセプトノートの作成、主要参加者の決定、等
2. ロジ調整	関係者のフライト・宿舎手配、等
3. 会場手配	イベント会社再委託、ホテル側との調整（会場決定、レイアウト作成、機材・セキュリティ・ケータリング等手配）、運営マニュアル作成、等
4. 告知・宣伝	招待状作成、フライヤー作成、申し込みサイト準備、パートナー等への周知、等
5. 資料作成	Run of Show、行事次第、動線図・席次、登壇者略歴、投影用資料、等
6. 実施中の支援	会場設営、共同議長・登壇者・VIP 対応、受付、プレス対応、等
7. 終了後	アンケート作成・集計、ウェブサイト記事掲載、動画編集、等

2.5 トリプルIへの参加呼びかけ

グローバルヘルス分野におけるインパクト投資を実施している、または今後実施することが想定される民間投資機関、医療・ヘルスケア関係の事業を行う事業者、国際保健に関する業務を行う機関・事業者等のうちトリプルIに未参加の国内機関を中心に、電子メールやオンライン会議等を通じてトリプルIへの参加呼びかけを行った。事務局の既存ネットワーク及びデスクトップ調査を踏まえ、事業会社、NPO、国内金融機関、海外機関ごとに対象となりうる組織・機関のリストを作成し、合計33機関に対してアウトリーチを行った。関心を寄せられた機関にはオンラインまたは対面での面談を実施し、トリプルIの活動について説明しつつ参加を呼びかけた。その結果、本アウトリーチを通じて合計15機関がトリプルIに参加するに至った。なお、この件数は事務局が能動的にアプローチしてパートナーとなった件数であり、組織・機関が問い合わせ等を通じて自らパートナー参画を示した数は含まれていない。

2.6 情報一覧の作成・更新

2.5で記載した参加呼びかけのほか、別途トリプルIのImplementation/Knowledgeパートナー等が行うトリプルIへの参加呼びかけの広報活動等を通じトリプルIへの参加に興味を示した団体を取りまとめた。パートナーとして新規加入頂いた場合は、関連リストを随時更新し、定期的に内閣官房にリスト

を共有した。

2.7 ウェブサイトの更新・運用作業

定期的な新規パートナーの追加及び掲載ニュースの更新に加えて、トリプル I のパートナーが各地域で取り組んだ成果を示すページを追加するなど内容を充実させ、パートナーのみが閲覧し投資情報を登録できる機能を実装した。

定期的な新規パートナーの追加時には、トップページのパートナー数の変更、パートナー種別に合わせた箇所へのロゴ掲載及びパートナーの指定があった場合には指定ウェブサイトへのリンクを掲載した。また、2024 年度に実施したラウンドテーブルや、開催イベントの内容、活動報告レポートの公開、パートナーの活動を紹介する Stories の追加などを行い、トリプル I 及びパートナーの活動を発信した。

内容充実の具体的な項目としては、トリプル I のパートナーが各地域で取り組んだ成果を示す Triple I for GH on the World Map ページのほか、これまでのトリプル I の広がりを時系列で示す Highlights and Progress のページを新規作成した。Triple I for GH on the World Map ページでは、地図上に該当する地域でのパートナーの活動を紹介する Stories が表示されるようにしたほか、全世界での成果をマイルストーンとして数値で示した。地図上の表示についてはさらに、スマートフォンやタブレット画面での表示形式も用意し、閲覧しやすいよう工夫した。Highlights and Progress ページでは、トリプル I の開始時から 2024 年度までの活動を網羅的に掲載するとともに、インパクト投資の実績も掲載し、トリプル I の成果を発信した。

新たにパートナー専用サイトも創設し、パートナーのみが閲覧できるコンテンツには、ウェブサイト上で毎年の投資情報報告ができる機能を実装し、報告方法を簡便化、かつ、トリプル I の成果計測に必要な報告内容を事務局がウェブサイトから受領できるように工夫した。また、運営委員会やセミナー・情報交換会など過去の内部イベントの資料を掲載したほか、パートナー同士の連絡・交流ができるようパートナーが自身で入力したメールアドレスやソーシャルメディアアカウントなどを閲覧できるパートナー一覧ページを実装した。更に、パートナー相互のコミュニケーションツールとして、Facebook Group の導入も行った。

The screenshot displays the homepage of the Triple I for GH on the World Map website. At the top, there's a navigation bar with links for News, About Triple I, Stories, Explore, Partners, Become a Partner, Contact Us, and Login. Below the navigation is a banner titled "Discover the milestones and efforts of Triple I and our partners in global health." It features four key statistics: 107 Partners, 22.4 Billion USD Invested, 188 Projects / Investment cases, and 280 million people access to healthcare. A large world map shows the distribution of partners across continents. A legend at the bottom defines symbols for Partners (blue circle), Roundtable (purple circle), Steering Committee (blue square), Meeting w/ All partners (yellow square), and Participating event (red circle). The main content area includes a "Highlights and Progress" section and a "Major Events and Other Outreach Events" section. The events section lists various international summits and conferences attended by Triple I partners, such as the G7 Hiroshima Summit, UN General Assembly, and World Health Assembly, along with other side events and meetings.

3章 トリプル I の運営に係る会議の開催

【要約】

本章では、トリプル I の運営に係る各種会議について記載している。

計 2 回の運営委員会や計 3 回のラウンドテーブル、G7 政府関係者との連絡会議を行った。加えて、インパクト測定・マネジメントに関するワーキンググループを計 6 回、政策立案者等に向けた政策提言に関するワーキンググループを計 3 回開催した。

さらには、インパクト投資促進のための資金提供メカニズムに関する調査・分析を行い、その結果を報告書に取りまとめた。

3.1 運営委員会の開催

3.1.1 第3回運営委員会

2024年8月28日、第3回運営委員会を開催した。同会議では、鈴木大使による進捗報告に加え、事務局からIMM WGの実施計画や成果物予定の説明があったほか、GSGからガーナ及びマレーシアにおけるDeep Dive調査について共有があった。

事務局としては、運営委員会の運営補助として、一部資料の作成や会議の召集・運営支援、記録作成やウェブサイトへの記事掲載を行った。

3.1.2 第4回運営委員会

2025年2月14日、第4回運営委員会を開催した。同会議では、鈴木大使による進捗報告に加え、共同議長であるSteve Davis氏から1月の世界経済フォーラム年次総会で開催したトリプルIのサイドイベントにおいて発表されたレコメンデーションに関する説明があったほか、事務局からIMM WGにおける議論を通じて準備しているPractitioner Guideの現状や今後の予定について説明があった。また、トリプルIの将来について意見交換が行われた。

事務局としては、委員会の運営補助として、一部資料の作成や会議の召集・運営支援、記録作成やウェブサイトへの記事掲載を行った。

3.2 セミナー・情報交換会

3.2.1 第3回ラウンドテーブル

2024年7月11日、第3回ラウンドテーブルが開催され、トリプルIのパートナーから計49団体・54名が参加した。鈴木大使からの進捗報告に加え、事務局から、トリプルIのパートナー機関から集計した情報を踏まえ、パートナー機関のIMMに関する取組の現状について説明があり、今後設置するIMM WGにおいて議論する内容を提案した。その後、トリプルIのパートナー機関であるQuadria Capitalより、同団体のIMMの取組について具体的な説明があった。その後、3グループに分かれてトリプルIの3つの柱に沿った3テーマの議論が行われた（Group 1- How to create ecosystem, Group 2- IMM challenges and expected roles of Triple I, Group 3- Expected roles of governments, DFIs, MDBs, International Organizations and others）。

事務局としては、会議の運営補助として、一部資料の作成や会議の召集・運営支援、司会、記録作成やウェブサイトへの記事掲載を行った。

3.2.2 第4回ラウンドテーブル

2024年12月13日、第4回ラウンドテーブルが開催され、トリプルIのパートナーから計28団体・34名が参加した。鈴木大使からの進捗報告に続き、トリプルIのパートナー機関であるGlobal Health Investment Corporation (GHIC)より、LMICsにおける保健分野の投資を行うCatalytic Health Investment Platform (CHIP)の活動内容について説明があった。その後、共同議長Steve Davis氏及び事務局から、Pillar 3の下で作成中の政策提言の内容について説明を行った。続いて、2グループに分かれて議論が行われた（Group 1 on IMM challenges and expected roles of Triple I, Group 2 on expected roles of governments, DFIs, MDBs, international organizations and others）。

事務局としては、会議の運営補助として、一部資料の作成や会議の召集・運営支援、司会・一部発表、

記録作成やウェブサイトへの記事掲載を行った。

3.2.3 第5回ラウンドテーブル

2025年2月21日、第5回ラウンドテーブルが開催され、トリプルIのパートナーから計23団体・26名が参加した。鈴木大使による進捗報告に加え、Steve Davis氏から1月の世界経済フォーラム年次総会でのサイドイベントにおいて発表されたレコメンデーションに関する説明があったほか、事務局からIMM WGにおける議論を通じて準備しているPractitioner Guideの現状や今後の予定について説明があった。続いて、トリプルIのパートナー機関であるHealth Finance Coalition(HFC)から、投資家とヘルスケア分野の事業者を繋ぎ、LMICsにおける資金動員を促すための様々な活動について説明があった。その後、参加者全員で自由な議論が行われ、HFCの投資戦略やIMMの取組に関する質疑応答、IMM Practitioner Guideの作成に向けた課題や方向性等に関する意見交換が行われた。

事務局としては、会議の運営補助として、一部資料の作成や会議の召集・運営支援、司会、記録作成やウェブサイトへの記事掲載を行った。

3.3 G7政府関係者との連絡会議

2024年8月29日、G7政府関係者との連絡会議（第8回）が開催された。鈴木大使からこれまでのトリプルIの活動・進展に関する報告を行ったほか、翌月に予定していた第79回国連総会の機会を捉えたサイドイベントについて紹介するとともに、トリプルIのWG開催等についてG7政府関係者で議論した。事務局では、会議の運営補助として、一部資料の作成や会議の召集・運営支援及び記録作成を行った。

3.4 ワーキンググループの開催

3.4.1 「インパクト投資の促進のための低中所得国の保健分野の投資環境の調査分析やインパクトの計測評価方法の標準化」に関するワーキンググループ（Pillar 2 IMM WG）（計6回）

トリプルIの活動3本柱の2つ目として、グローバルヘルス領域におけるインパクト投資の拡大に向けたIMM手法の確立が挙げられている。実務家向けのガイドラインであるPractitioner Guideと、政策提言集Policy Recommendationの作成に向け専門家や実務家との意見交換、実際のIMMの取組事例の紹介のためのWGを、2024年9月から2025年3月にかけて計6回開催することとなり、あずさ監査法人はこの運営の支援を行った。

Working Group on Impact Measurement and Managementの参加者一覧

[Members] (in alphabetical order)

Mr. Labeeb Abboud, Global Health Investment Corporation

Ms. Zerrou Kenza, World Health Organization

Mr. Gerald Läzer, KfW

Ms. Kristin Neudorf, Grand Challenges Canada

Mr. Moses Obinyeluaku, Afreximbank Gwen Mwaba

Ms. Shivani Sahai, Quadria Capital

Mr. Kotaro Sueyoshi, Mizuho Financial Group

Ms. Maddie Ulanow, Global Impact Investing Network

Ms. Julie Wallace, LeapFrog Investments

3.4.1.1 第1回ワーキンググループ(Working Group on Impact Measurement and Management)

2024年9月20日に第1回WGをオンラインで開催した。鈴木大使がIMMの重要性について強調し、企業や投資家が安心して計画を立てられるガイドラインの提供を目指していることを述べた。また、トリプルI事務局からはヘルス分野のIMMの現状についての概観を説明するとともに、IMMにおける標準化の欠如やデータ収集の困難さなどの課題を説明し、これらの課題を解決するためのガイドラインと政策提言の作成について提案した。

第1回WGでは2つの団体(KfW、SII Impact Capital)からプレゼンテーションがあり、LMICsの健康関連事業への投資を行い社会的インパクトを目指していること、日本のウェルネスおよびヘルスケアスタートアップへの投資に焦点を当てていることなどが共有された。質疑応答では、特にデータ収集とその評価方法について多くの意見が交わされ、参加者の間でIMMの評価方法への高い期待が示された。

3.4.1.2 第2回ワーキンググループ(Working Group on Impact Measurement and Management)

2024年11月15日に第2回IMM WGを開催した。冒頭渋澤トリプルI共同議長からは、実務者ガイドの進捗状況を世界経済フォーラム年次総会2025のサイドイベントで報告すること、また、投資家からの懸念に対処する必要性が述べられた。

トリプルI事務局は、実務者ガイドと政策提言を目指していることを説明するとともに、実務者ガイドの柱として、インパクト投資戦略、インパクトの測定と管理、政府や他組織とのコミュニケーションと協力の3つのテーマを提案した。質疑応答では、幅広い読者に適した実務者ガイドの内容が議論された。第2回WGでは、2つの団体(Global Impact Investing Network、AXA Investment Managers UK Limited)からのプレゼンテーションがあり、ヘルスケア分野のインパクト投資の増加意向やIRIS+などのフレームワークも紹介され、包括的なインパクト評価の重要性、また、ヘルスケア提供への直接投資と製品開発の重要性が説明された。

3.4.1.3 第3回ワーキンググループ(Working Group on Impact Measurement and Management)

2024年12月4日に開催された第3回IMM WGでは、3つの団体(Health Finance Coalition、Global Health Investment Corporation、MedAccess)のプレゼンテーションが行われ、LMICsの健康改善に向けた技術開発とグローバルアクセス合意、COVID-19対応として開発したOpen Doors African Private Healthcare Initiative(ODAPHI)の成功事例などが共有された。Triple I事務局からは実務者ガイドについて、グローバルヘルスにおけるインパクト投資の定義、インパクト投資フレームワーク、価値連鎖の視覚化、メトリクスのギャップと機会が紹介された。

3.4.1.4 第4回ワーキンググループ(Working Group on Impact Measurement and Management)

第4回WGは2025年1月29日に開催され、3つの団体(Grand Challenges Canada、GRI、Metrics for Management)がIMMの取り組みについて紹介、パンデミック対策や医療施設の支援などの事例が共有された。次に、IMMによる指標の測定について、LMICsでのデータ収集の難しさや、持続的な変化を正確に測定する必要性が述べられた。多くの測定フレームワークが紹介されたが、特定の投資プロジェ

クトに適した指標の調整が必要であることが示された。最後に、トリプル I 事務局が実務者ガイドの草案について説明、参加者からのフィードバックを受けて初稿作成予定である旨共有し、会議が締めくくられた。

3.4.1.5 第5回ワーキンググループ(Working Group on Impact Measurement and Management)

第5回 WG は 2025 年 2 月 26 日に開催された。取り組み事例を発表した団体 (LeapFrog) は、投資において IMM を取り入れる重要性を強調した。具体的には、1) 投資委員会レベルでの責任確保、2) 包括的な変革理論の構築、3) 投資の最初の 100 日以内にインパクトと価値創造の優先事項を設定することが説明された。さらに、インパクト投資を促進するための税制優遇措置などのインセンティブが提案された。その後、特定のインセンティブの例やその影響について議論が行われた。

トリプル I 事務局から、今後の活動と実務者ガイドの草案について説明するとともに、戦略的なコミュニケーションや政策提言の重要性を強調した。最後に事務局は、参加者のフィードバックを元に、3 月に実践ガイドのベータ版がリリースされる予定である旨言及して会議を終了した。

3.4.1.6 第6回ワーキンググループ(Working Group on Impact Measurement and Management)

第6回 WG は 2025 年 3 月 21 日に開催され、2 団体 (African Export-Import Bank, Global Partnerships) が IMM の取り組みについて紹介した。登壇者からは、インパクト測定と財務デューデリジェンスの統合、開発インパクトフレームワークと信用格付け評価の重要性についての言及があった。ディスカッションでは、データの質と信頼性の重要性が強調された。トリプル I 事務局からは実務者ガイドの第 2 案の説明がなされ、特に、新規参入者向けと経験豊富な組織向けのバランス考慮した修正を行った旨の説明が行われた。

3.4.2 「ブレンドファイナンスの手法によるインパクト投資促進のための開発金融機関や国際機関等との連携による具体的な資金提供メカニズムの調査・検討」に関するワーキンググループ (Working Group on Policies and Enabling Environments) の開催（計 3 回）

トリプル I の活動 3 本柱の 3 つ目として、「ブレンドファイナンスの手法によるインパクト投資促進のための開発金融機関や国際機関等との連携による具体的な資金提供メカニズムの調査・検討」について、トリプル I 参加機関や有識者とともに、各国政府や国際機関、DFI、MDB 等に対する提言を取りまとめるための具体的な検討を行う目的で、2024 年 11 月から 2025 年 1 月にかけて、WG を計 3 回開催した。事務局では、参加者（以下リスト参照）の選定、開催スケジュールと議題の設定、会議用資料作成、参加者への連絡調整、オンライン会議の設定、当日の司会及び議事録作成の業務を行った。

Working Group on Policies and Enabling Environments の参加者一覧

[Chair]

- Mr. Steve Davis, Co-Chair of Triple I, Senior Advisor and Interim Director of the Philanthropic Partnerships Team, Bill & Melinda Gates Foundation, Stanford Graduate School of Business Lecturer and Global Health Faculty Fellow, Member of the Council on Foreign Relations

[Members] (in alphabetical order)

- Ms. Cate Ambrose, Chief Executive Officer, Global Private Capital Association
- Mr. Michael Anderson, Chief Executive Officer, MedAccess
- Ms. Monisha Ashok, Director, Health Investments, United States International Development Finance Corporation
- Mr. Frank Aswani, Chief Executive Officer, Africa Venture Philanthropy Alliance
- Ms. Madhavika Bajoria, Executive Director of Health Impact, AVPN
- Mr. Eduardo Banzon, Director, Health Practice Team, Human and Social Development Office, Asian Development Bank
- Mr. Rick Beckett, Chief Executive Officer Emeritus, Global Partnerships
- Ms. Saeda Makimoto, Senior Deputy Director General, Human Development Department, Japan International Cooperation Agency

3.4.2.1 第1回ワーキンググループ (Working Group on Policies and Enabling Environments)

2024年11月6日に第1回WGをオンラインで開催した。鈴木大使の冒頭挨拶の後、本WGの議長としてトリプルI共同議長のSteve Davis氏がグローバルヘルス分野における民間投資の重要性について強調し、政府などの公的機関による具体的な行動が必要であることをメンバーに対して訴えた。事務局からは、グローバルヘルス分野における資金ギャップを示し、政策面での改善に取り組む必要性を説明し、既存政策ツールの活用、新制度・新機関の設立、教育プログラムの実施等の案を提示した。

ディスカッションでは、WG参加者より、成功事例からの教訓を得ること、投資リスクを軽減する方法を模索すること、ヘルス領域は成長産業であると伝えることで民間からの資金を呼び込むこと、といった意見が出された。また、提言には実用的な内容を含めるべきとの指摘がなされ、第2回WGにおいてより具体的な提言案を議論することとした。

3.4.2.2 第2回ワーキンググループ (Working Group on Policies and Enabling Environments)

第2回WGは2024年11月27日にオンラインで開催した。まず、事務局から第1回WGの概要と第2回WGの目的を説明し、参加者に対して提言案をより実用的な内容にするためのフィードバックを求めた。

ディスカッションでは、提言の目的を投資促進とするか、またはグローバルヘルス領域における課題解決・改善とするか、を明確にしたうえで提言案の最終化を行うべきとの指摘がなされた。また、事務局から提示した提言案を1つずつ取り上げて参加者で議論し、それぞれの提言案の目的や具体的な成功事例の有無について意見交換を行った。

3.4.2.3 第3回ワーキンググループ (Working Group on Policies and Enabling Environments)

第3回WGは、参加者にメールで提言レポート案を送付し意見を求める形式で開催した(2025年1月10日にメールを送付)。期限までに参加者から寄せられたコメント及び修正案を提言レポート案に反映し、2025年1月の世界経済フォーラム年次総会のサイドイベント「New Financing for Global Health: How Governments, Global institutions and Businesses can Expand Impact Investment」で発表した「Unlocking Investment for Global Health Impact - What Governments & Global Institutions Can Do to

Accelerate Impact Investment for Global Health」 という政策立案者向けのレコメンデーションとして取りまとめた。

3.5 「ブレンドファイナンスの手法によるインパクト投資促進のための開発金融機関や国際機関等との連携による具体的な資金提供メカニズムの調査・検討」のワーキンググループ開催のための情報収集・分析及び報告書作成

3.5.1 デスクトップ調査

グローバルヘルス分野におけるインパクト投資促進に関し、各国政府や国際機関、DFI、MDB 等が果たしうる役割を検討し、それに基づく提言を発出することを目的に、ブレンドファイナンスの手法を始め、政府等の有する政策ツール、協力メカニズム等について調査・検討を行った。調査を進めるに当たっては、過去のトリプル I 関連イベントにおける発言内容の確認や各国政府・関連機関の取組に関するデスクトップ調査を通じて概要を把握した上で、WG での議論や G7 各国へのアンケート、関連機関へのインタビュー等を通じて深掘りを行った。全体を通して、Steve Davis 氏を中心とする共同議長からのガイダンスの下、WG やラウンドテーブル等を通じて専門家やトリプル I パートナーのご意見もいただきながら調査・検討を行った。

デスクトップ調査においては、Steve Davis 氏とも複数回にわたって協議を行いながら、仮説設定と情報収集・分析を実施した。GSG 等が発行しているインパクト投資やブレンドファイナンスに関するレポート・文献からデスクトップ調査を行い、マトリックスを用いた課題整理や提言案のカテゴリ化と優先度付けを行った。デスクトップ調査で調査・収集した情報を基に、WG における議論のための資料を作成したほか、9 個の提言を含む報告書を作成した。

3.5.2 アンケート調査

調査手法の一つとして、G7 関係機関を対象とするアンケート調査を実施した。アンケートには、政府及び公共機関がどのように低中所得国のヘルスケア領域に向けたインパクト投資促進に貢献できるかを明らかにするため、大きく以下の 5 つの観点についての質問を設けた。

- ・ 民間投資が課題解決に貢献できるグローバルヘルス関連の課題・機会と、それを踏まえて G7 政府が特に注力している領域
- ・ G7 各国政府によるグローバルヘルス等の分野への民間資金動員の取組・政策ツールと成功事例
- ・ グローバルヘルス等の分野におけるインパクト投資促進のための他国政府、DFI、MDB、国際機関等と連携した取組
- ・ グローバルヘルス領域におけるインパクト投資を促進させるために、既存の取組を補完するような新たな取組のアイデア
- ・ トリプル I のような G7 イニシアティブへの期待

3.5.3 インタビュー

調査手法の一つとして、2024 年 11 月から 2025 年 3 月にかけて、GSG、IPE Global、JICA、EIB、DFC、54Collective、及び Lelapa といった、G7 関係機関、インパクト投資家、及びインパクト投資関連機関を対象としたオンラインインタビューを実施した。各インタビュー対象者からは、それぞれの組織におけるインパクト投資促進のための取組について深堀して質問を行うとともに、提言案についての意見

を聴取した。

3.5.4 報告書作成

デスクトップ調査、G7 関係機関へのアンケート調査、及びオンラインインタビュー調査を通して収集・整理した情報を踏まえて、報告書「Unlocking Investment for Global Health Impact - What Governments & Global Institutions Can Do to Accelerate Impact Investment for Global Health」を作成した。初版は 2025 年 1 月のサイドイベント「New Financing for Global Health: How Governments, Global institutions and Businesses can Expand Impact Investment」で関係者に向け発表した。その後、好事例の内容を充実させ、2025 年 3 月に最終版報告書（添付資料参照）として取りまとめた。

4章 トリプル I 事務局の補助業務

【要約】

本章では、トリプル I の日々の活動を支える運営補助業務について記載している。

主な活動として、月に 1 回程度のペースで開催した共同議長との会議開催支援や、その他共同議長との連絡・調整が挙げられる。また、新たにパートナーとしての参加を希望する機関へ必要書類の共有や手続きに係る案内の送付、パートナー登録受付や一覧リスト管理といった事務局・運営業務を行った。さらには、メールを中心とする各種問い合わせに対応したほか、事務局の文書管理や事務局運営に関する打合せ等を行った。

4.1 共同議長との連絡・調整

トリプル I の日々の活動の運営補助として、月に 1 回のペースで共同議長 3 名及び事務局間の会議を開催した。事務局として、会議に向けた資料作成、運営支援（オンライン会議設定等）、記録作成を行った。

期間中に開催した共同議長会議の概要は以下のとおり。

日時	議論の主な内容
2024 年 5 月 10 日	世界保健総会サイドイベント、中間報告書、IMM WG、運営委員会、等
2024 年 6 月 19 日	IMM WG、国連総会サイドイベント、中間報告書、関連イベント、Pillar 3・GSG 調査、等
2024 年 7 月 11 日	国連総会サイドイベント、運営委員会、等
2024 年 8 月 13 日 (※メール開催)	国連総会サイドイベント、今後のイベント、IMM WG、Pillar3・GSG 調査、等
2024 年 9 月 6 日	国連総会サイドイベント、中間報告書・年次報告書、Pillar 3 追加調査、等
2024 年 10 月 11 日 (※メール開催)	Pillar 3 WG、世界経済フォーラム年次総会サイドイベント、等
2024 年 11 月 1 日	世界経済フォーラム年次総会サイドイベント、Pillar 3 追加調査・WG、IMM WG、今後のイベント、等
2024 年 12 月 13 日	世界経済フォーラム年次総会サイドイベント
2025 年 1 月 10 日	世界経済フォーラム年次総会サイドイベント、運営委員会、今後の予定、等
2025 年 2 月 7 日	Pillar 3 報告書、今後のイベント、運営委員会、等
2025 年 3 月 25 日 (※メール開催)	Pillar 3 報告書、IMM WG、ウェブサイト、等

4.2 事務局・運営業務

トリプル I へのパートナー参画に関心を示した機関への登録受付を支援し、必要書類の共有と手続きに係る案内を行った。受領したトリプル I 参加機関の概要及び連絡先等の情報、トリプル I への参加申込書・ロゴデータ等は、電子ファイルで集約・管理し、エクセルファイルの一覧リスト等で情報を整理し、随時更新した。また、トリプル I 参加機関からの質問やコメント等に対しては、内閣官房と相談の上、回答や情報提供等の対応を行った。

4.3 問い合わせ等への対応

トリプル I に関する参加機関及び参加機関以外からの問い合わせへの対応を、内閣官房と相談しながら、メール等により行った。必要に応じて先方とのオンラインミーティングの実施や議事メモの作成を行った。

4.4 事務局の文書管理

トリプル I の運用マニュアル、各種 Terms of Reference、Privacy Policy、Brand Use Policy 等、トリプル I の運営管理に必要な文書の管理を行うとともに、必要に応じて作成・更新を行った。

4.5 事務局運営に関する打合せ

トリプル I の事務局の運営に関して、内閣官房と週 1 回の定期的な打ち合わせを行い、進歩状況の確認や ToDo の整理を行った。また、国際的なネットワークイベントや各種 WG、その他イベントの開催状況に応じて、臨時の打ち合わせを設定し、密な連絡・報告の下に事務局運営を執り行った。

4.6 報告書の作成

4.6.1 中間報告書作成

2023 年 9 月の立ち上げ時から 2024 年 5 月の活動をカバーした中間報告書（Midterm Report）を作成した。同報告書には、共同議長による序文、トリプル I 設立の経緯やこれまでの主なマイルストーン、パートナー団体の取組紹介、トリプル I の認知度を高める目的で主催、共催、参加した国際会議やイベント報告、パートナー含む内部関係者向けのイベント（ラウンドテーブル、運営委員会等）、パートナーによるインパクト投資の現状、今後の取組、及び鈴木大使によるあとがきなどを紹介している。同報告書は 2024 年 9 月の国連総会サイドイベントにて参加者に配布するとともに、ウェブサイトにも掲載した。同報告書はアウトリーチ活動においても活用されている。

4.6.2 年次報告書作成

2023 年 9 月の立ち上げ時から 2024 年 9 月の活動をカバーした年次報告書（Annual Report）を作成した。同報告書には、共同議長、鈴木大使の序文、パートナー団体の取組紹介、トリプル I の認知度を高める目的で主催、共催、参加した国際会議やイベント報告、パートナー含む内部関係者向けのイベント（ラウンドテーブル、運営委員会等）及びウェブサイト運営の報告、インパクト投資の現状分析、各 Pillar の今後の取組などを紹介している。同報告書は 2025 年 1 月のダボスイベントにて参加者に配布するとともに、ウェブサイトにも掲載した。同報告書はアウトリーチ活動においても活用されている。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2025 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved.

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.